

成願寺

季報

139

令和6年2月18日
(2024年)

目次	
「瑩山禪師の教えと誓願について」山口正章	1
中野たから幼稚園で自転車安全講習会開催	5
中野たから幼稚園、夏期保育の報告	7
山内短信	8

発行 多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町 2-26-6
電話 03-3372-2711
制作 地人館

連載第二回 七百回大遠忌を迎えた大本山總持寺御開山

瑩山禪師の教えと誓願について

福井県龍泉寺住職 山口正章

坐禅修行

瑩山禪師のご生涯（一二六四～一三二五）は、当然のことながら、すべて坐禅を中心としたお寺での修行生活でありました。それは道元禪師の只管打坐しかんたざの教えを継承し、坐禅によって仏道の根本を明らかにすることを示されたものでした。

また、檀信徒に対する布教や教えも坐禅を根本としたものでした。坐禅によって誰もが悟りを得ることが出来ること示され、未だ確かな悟りを得ていない人も坐禅に打ち込めば仏と同じ境涯になることができること強調されています。さらに、禪師は授戒を積極的に取り入れ、生涯で七百人以上へ戒法が授けられました。

能登半島地震で被災された方々に

心よりお見舞い申し上げます。

除夜の鐘、新年祈禱、元旦とお寺の行事を執り行い、ほっと一息ついたその時、携帯電話が振動して緊急速報が伝えられました。急いでテレビをつける と最大震度七。津波警報が大津波警報に変わり、アウンスターの避難を促す呼びかけが只事ではなく、正月の和やかな雰囲気を一変させました。その後の被災地の惨状は皆様報道でご存じの通り。被災された方々には、報道以上のご苦労と存じます。

また、多くの犠牲者をもたらしました。春彼岸中日法要において、犠牲者の追悼法要を執り行います。参列の檀信徒の皆様には、ご一緒に両の手を合わせて供養のまことを捧げていただきたいと思います。被災された方々の身心御健康と、被災地支援の進捗をお祈りしております。

合掌 成願寺

*二月上旬より約二ヶ月半、観音堂（圓通閣）の外装工事をを行います。ご参拝可。お足下にご注意ください。



『伝光録（写本）』（龍泉寺蔵）

瑩山禅師が大乗寺（金沢）において、お釈迦様から永平寺二祖懷辨禅師に至るまでの五十三代にわたる祖師について提唱されたものを、侍者（秘書）が編録したものを、原本は発見されておらず、34種類の写本が總持寺に縁のある寺院に伝わっている。龍泉寺所蔵のものは、その一つで「龍泉寺本」と呼ばれる貴重な資料。

ここで、当時の禅師の修行生活がどのようなものであったかをみてみましょう。

一日の始めは、寅の刻半ば、今の午前四時頃に起床し、就寝は亥の刻半ば、午後十時頃という、早起きの健康的な日課です。食事は、朝食と夕食は主にお粥、昼食はご飯でした。夕食をお粥と定められたことは注目すべきことです。お勤め（勤行）は、朝・昼・夕方の三回、陀羅尼だらにと呼ばれるお経などを読みます。坐禅は四回行いました。午前は四時頃から六時頃までと、九時頃から十一時頃まで。午後は四時頃から六時頃までと七時頃と九時頃まで。合計八時間の坐禅をしました。

また、午後一時頃から三時頃まで、修行僧へ講義がなされました。禅師が定めた講義の在り方は、当時としては極めてユニークなものでした。テキストは、修行僧たちの希望によって祖録や経典が決められ、どのような自由な質問も認められました。また、礼を失しなければ自由な服装（必ずしも袈裟を着なくてよい）を許されました。聴講も決して強制ではなく自由でした。実にのびのびとした解放的な考え方であります。

しかし、そうはいつでも、むやみに私語を交わしたり中座をすることは厳に禁じられました。ここに、修行僧への教育に対する謙虚な姿勢がうかがえます。また修行僧たちが、いかに禅師を信頼していたかが解ります。こういう遠慮のない打ち解けた、しかも真剣そのものの雰囲気であったからこそ、禅師の門下から優れた人材が続々と輩出されたのです。

また禅師は、仏法修行の上において、男尊女卑の風習を徹底的に批判し、「女人救済」の誓願を立てました。『でんこうろく伝光録』には、

先ずすべ須らく一切の是非善悪男女差別の妄見もうけんを解脱すべし（第四十一祖章）

と述べられ、また別のところで、

いたずらなる男子なりとも、また女子なりとも、
是の如く道を会せば是れ長老なりというべし

と述べられました。

禅師の女性観は、男性の立場から見た女性観とい
うのではなく、また男性と女性を対立する二つのも
のとして比較したのでもなく、真理の立場、すなわ
ち正法の立場から観たものでありました。男性とか
女性とかそういう風な相対的な見方でもって両者を
差別するのは間違っている、そういう考えから抜け
出なければならぬと述べられています。

多くの縁の重なり

大聖転法輪 顕示諸法相

度苦惱衆生 得令大歡喜

(大聖法輪を転じ 諸々の法相を顕示す

苦悩の衆生を度して 大歡喜を得せしめたもう)

これは大本山總持寺に於いて総諷經(施主供養
や檀家の法事で唱えられる回向文で、『妙法蓮華經』
「化城喻品第七」に出てくる一句です。



大本山總持寺総諷經の様子。平成19年3月27日、大道晃仙大禪師猊下に導師をお勤めいただいた成願寺参拝団

瑩山禪師は『法華經』をととても重要視され、二十
二歳の時に「法師功德品第十九」中の、

父母所生の眼をもつて三千世界の内外の彌楼山、須
弥および鉄圍ならびに諸余の山林、大海、江河水を
見ること、下阿鼻獄に至り、上有頂天に至らん 云々

のくだりを讀まれて省悟されました。

更に晩年、永光寺を建立した際には、新築の方丈
を「妙莊嚴院」と命名されました。これも「妙莊嚴
王本事品第二十七」から取られたものと考えられま

す。「自耕自作閑

田地 幾度売来買

去新 無限靈苗種

熟脱 法堂上見挿

鋤人」の遺偈を示

して遷化されたの

も、この妙莊嚴院

でした。

道元禪師と同じ

く瑩山禪師も『法

華經』を重要視さ

れましたが、曹洞宗の教え・坐禅と『法華経』は少しも矛盾することなく、坐禅修行が即ち法華経の教えを実践していることとなります。『法華経』が釈尊の禅定・坐禅三昧の立場から説かれている点は、私たちが承当しておかなければならないことです。

さて、「化城喻品」で説かれるのは「縁の重大性」です。「化城喻品」の主人公は十劫もの長い間（一劫は四十三億二千年）坐禅を修して成道された（あるいは成道されなかった）大通智勝仏という仏さまであり、その坐禅するお姿を諸々の梵天たちが讃嘆したのが冒頭の回向文です。『宝鏡三昧』の中に、

仏道を成ずるに垂として十劫樹を観ず

とあるのはこのことです。その意味は「大通智勝仏が気の遠くなるような永い時間をかけて坐禅を続けた功德により、この世の全てに仏性が宿るということとを明らかにし、多くの苦しみ悲しんでいる衆生を救い喜びに転じせしめた」というものです。

坐禅を第一義とする曹洞宗には最もふさわしい文言といえますが、「縁の重大性」とはどういうことでしょうか。それは「縁は最初から成就するものではなく、様々な縁と縁の重なりが濃くなっていき最後

に成就する」というものです。つまり、「多くの縁の重なり」が説かれているのです。

たとえば、自分が「いま、ここに存在する」ということを考えてみます。すると「たとえ先祖が誰であろうと、現在の自分に到るまで、連続として命を受け継いできた」という事実が気付きます。

私たちの先祖をたどっていきますと、類人猿から哺乳類や爬虫類、更には魚類になり、植物になり、遂には海中の珪藻類、単細胞生物へたどりつきます。それで終わりかという違います。生命を生み出したのは、原始地球のどろどろに溶けた溶岩や海、あるいは太陽から来る光、そういうものの働きの中からです。ということは、私たちの先祖は、かつては溶岩や海水であったこととなります。さらにその前は地球が出来る以前の宇宙を漂う塵やガスでありました。さらにその前は……と突き進んでいきますと、なんと説明のしようがありません。

そのところを仏教では直感的に「空」というのです。つまり宇宙の始めから今日まですべての因縁をいただいているということに他ならないのです。「無」とは何も無いことではなく、ありとあらゆるものを生み出す「無尽蔵」の無なのです。「空」も同じ

ことです。私たちの命はみんなずつと繋がっているのです。「親の三回忌に生まれた」という人はいません。今生だけの縁ではなく、過去世からの連なりがあつて出会っているのです。「化城喻品」で大通智勝仏が永い時間をかけて坐禅を続けられたのも多くの縁の重なりなのです。ですから今回、私たちが今生に於いて瑩山禅師の大遠忌に巡り会うということとは、今生だけの縁ではなく、過去世からの多くの縁の重なりがあつて出会っていることになりませぬ。

大乘仏教では「自覚」すなわち自分が悟るのと、「覚他」他人を救うことは一つであると教えます。すなわち、幸せを自分だけが独り占めするのではなく、「あの人にもこの人にも幸せを」と共に歩むべき人間の道・仏道を成就したいと「誓願」を発することなのです。このような人を瑩山禅師は『伝光録』の中で「那人」と称されておりませぬ。

瑩山禅師は生涯に三度も「衆生済度^{しゆじやうさいど}」の誓願を発しております。翻つて、現代に生きる私たちは果たしてどれだけ「誓願」を發し、それを実践しているでしょうか。このことを改めて自らに問うことが、大遠忌を迎える瑩山禅師から私たちへ投じられた問題（公案）といえませぬでしょうか。

合掌

◎中野たから幼稚園で自転車安全講習会開催

昨年五月二十九日（月）、九月五日（火）の両日、中野たから幼稚園地下ホールにおいて、中野警察署交通課の金子三春巡查部長、同じく交通課の風間巡查、西野巡查による自転車安全講習会が開催されました。特にお子さんの送迎で自転車を利用することが多い保護者のみなさんと、卒園児、先生方が聴講しました。以下に金子巡查部長のお話を紹介します。



「都内で一年間に起こる交通死亡事故の件数は、平成十五年（二〇〇三）は三百二十件。令和四年は百三十二件で戦後最も少なく、一番多い年の



笑いも織り交ぜながら話を進める金子巡查部長



クイズに手をあげる卒園児



改正道路交通法の施行により、令和5年4月1日からは自転車利用者のヘルメット着用が義務化されました。種類も豊富なヘルメットを

千百七十九件と比べだいぶ減ってきました。これは自動車に搭載されている自動ブレーキ機能などの進化、また医療の進化によるところも大きいのですが、中野区は自転車の事故数は都内ワースト一位から四位を行ったり来たり。四月はワースト八位になりましたが、私たちは年間四百回ほどこの講習会を開催して、交通ルールの周知に努めているところです。

事故を未然に防ぐためにも中野区は自転車の交通違反の取り締まりに力を入れています。違反者には車やバイクと同じく赤切符を切ります。そして警察署で取り調べをして調査を作成します。さらに通告センターに出頭していただき罰金。また、違反や事故を三年間に二回以上すると講習を受けてくださいと通知がいきます。これを無視しますと罰金五万円が課せられます。違反や事故にはくれぐれも気を付けていただきたいと思います。

中野区内で四月現在、百九十七件の人身事故が発生しています。自転車同士、自転車と歩行者、自動車と歩行者などです。そのうち自転車が関与している事故が百十四件。人身事故の半分以上が自転車の事故なのです。原因はさまざまですが、右側通行、信号無視やななめ横断などをする方が多いのです。

みなさんはご存じと思いますが、自転車は車道の左側通行が原則です。歩道は例外で「普通自転車歩道通行可」の標識があれば、歩行者優先で走行することができそうです。「歩行者が優先」ですので、三人横並びで歩いている人たちが邪魔だと思つてベルを鳴らすのは間違つた行為です。ちなみに区内の「普通自転車歩道通行可」の標識は、九月以降ほとんどなくなつていく予定です。自転車で歩道を通ることができなくなりますのでお気をつけください。ただし、十三歳未満、七十歳以上、身体の障害を有する方は標識がなくても歩道を走行することができます。ちなみに歩道を走行する際は、建物側ではなく道路側を走行します。これは建物から出てくる歩行者とぶつからないためです。

次に車道の左側を走行中に交差点で右折をする時ですが、赤信号の時に停止線で止まるのは原則で、



講習会のあとの記念写真

自動車と同じように右折するのは違反です。歩道で走行している場合は、歩行者用の信号機にしたがってください。

夜間ライト点灯のルールは、無灯火は違反です。十時先まで照らせるライトにしてください。そして自転車も飲酒運転は違反です。自転車は免許証は必

要ありませんが、悪質な場合には点数を引かれる場合もありますので、『飲んだら乗らない』が原則です。それからスマホが鳴った場合は自転車を止めて確認していただくのが安全です。」

◇ ◇ ◇
イラストや事故の映像などで具体的な解説をいただき、改めて自転車

の乗り方について考える有意義な機会となりました。

◎中野たから幼稚園、夏期保育の報告

中野たから幼稚園では、毎年夏休みの終盤に夏期保育を実施。昨年も八月二十九日から三日間行われました。久しぶりに登園した子どもたち。笑顔で出迎えた先生方に、夏休みの報告をしてくれます。検温や朝の支度を終わると、年長さんは屋上でプール遊び。年中さんはスライム作り。年少さんは園庭に出てボディペインティングをそれぞれ楽しみました。新学期に向け、幼稚園での生活リズムを取り戻す一環となりました。



屋上でのプール遊び（年長）



スライム作りに挑戦（年中）

山内短信

◎春彼岸中日法要「修証義奉読会」のお知らせ

三月二十日(水) 春分の日

十一時 受付始まり

十二時 講談 日向ひまわり師

十三時 中日法要

＊お彼岸中(十七日から二十三日、十時より十六時)、「安達原玄祈り写仏の会・成願寺教室」の作品展を本堂地下にて開催します。ぜひお立ち寄りください。

◎中野大好きナカノさん、来山

中野区民部シティプロモーション係が手がける



鍋島家墓所を見学するナカノさんを撮影するお二人

「中野大好きナカノさんプロジェクト」。ナカノさんは人形作家の清水真理さんが手がけた、球体関節人形で中野区のオリジナルキャラクターです。公式サイトを覗いてみると、「中野は、あらゆる個性を受け入れるまち。ナカノさんは、そんな中野に憧

れて、中野にやってきた人形です。中野区で出会う様々な日常を、「ナカノさん」の無垢な眼差しで見つめ、区民とともに地域の魅力を発信しています。」
昨年七月二十七日(木)、ナカノさんを連れて、係のお二人が来山。Instagram、Facebook、(旧 Twitter)にナカノさんの参拝の様子が紹介されています。

ご報告

昨年十月二十九日(日)、住職の孫小林堯成と今井恵理さんが本堂において、本尊様、親族が見守る中、結婚式を執り行いました。式師は、静岡県良泉寺ご住職大塚達雄老師にお勤めいただきました。

今後とも、若い二人へのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

合掌

